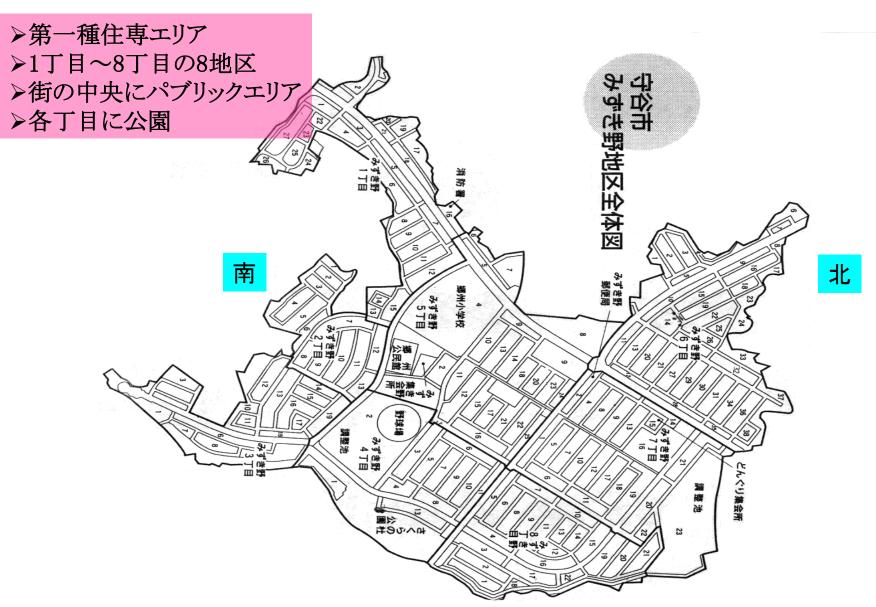
3世代が安心安全に住み続けることができる街(引き継ぐ次世代が存在し継続する街)

2016年6月 みずき野町内会

みずき野全体図



みずき野の紹介

- ▶ 2,000世帯、6,000人の街
- ➤ 1980年に入居が始まったNew Town
- ▶ 単一の町内会組織、加入率99%
- ・ 守谷市人口の10%が単一組織
- ・ 守谷市の平均は150世帯/町内会
- > 急激に少子高齢化が進んでいる
- ・ 20年前の子育て世代(40%)が今高齢者(45%)、2030年には住民の半数以上が後期高齢者
- · 20年前には子供世代が約2,000人、今、600人(守谷市平均の1/3)、2030年 には?
- ・ 2050年の人口構成は???(都会の限界集落?)
- ▶ 第二世代、第三世代の転入と定着促進が街再生の鍵
- ・ 子育て世代の転入を促進
- ・ 青年層の定着と転入促進

少子高齢化への対応が喫緊の課題!!

みずき野町内活動

- ◆ 住民主体
- ▶ それぞれができることをやる
- ▶ 相互見守りと助け合い



地域家族の具現化

◆核になる実行部隊の創設

- ➤ 福祉協力員制度(平常時の核)
- ▶ 自主防災隊(有事の核)
- ▶ 班長組織(実行部隊との協働活動)

◆ 向こう三軒両隣の風土つくり

- ▶ お互い見守り、助け合う風土作り
 - ▶ ボランティアの支援・再編
 - ▶ 住民同士の交流促進

◆ みずき野の将来像構想(町内会)

- > 全体構想の取りまとめと活動支援
 - 他組織との連携・調整
 - 地域福祉活動計画との整合性

みずき野の地域活動方針

◆ 関係者が共有できる指針(ビジョン)を持っている

- ▶ 理想・期待(一段高い目標)
- ➤ 実現できると信じられる(実現までの道筋が見える)
- ▶ 参加したいと思える(成功の喜びを共有したいと思える)

◆ 住民参加型の活動を展開

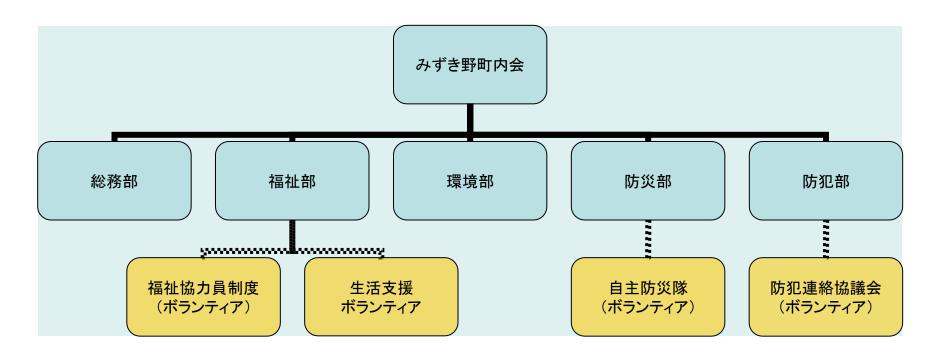
- ▶ 仲間作り(独りが10人、その10人がそれぞれ10人、賛同者を増やす)
- ▶ 決め打ち(「広く募集」に加え、協力して欲しい人を個々に説得)
- ▶ 役割分担(地域社会は横組織、合意に基づく協働作業)

◆ <u>できることから始めて、やりながら修正する</u>

- ▶ 討議に時間をかけない(議論に時間をかければかけるほど難しくなる)
- ▶ 核になるメンバーが揃ったら始める(スタートが遅れると参加者の意欲は薄れる)
- ▶ 小さな成功を積重ねる(成功体験が次に進む原動力)
- ▶ 定期的な見直しと進行管理を行う(これができる仕組みづくり)

みずき野の第一世代が元気な今がチャンス!!

組織



意思決定機関

◆役員会(会長、副会長5名)

執行機関

- ◆運営会議(役員、各部、正·副部長)
- ◆班長組織(120名)

委員会(企画管理)

- ◆広報委員会(常設)
- ◆地域福祉活動計画実行委員会(常設)
- ◆夏祭り実行委員会(年単位)

みずき野 地域包括ケアシステム事業

◆ 地域住民による地域住民(子供から高齢者まで)を見守る活動

- ▶ 多くの住民がそれぞれの立場で参加
- ▶ 互助、共助を中心に活動(公助、自助と分業)

◆ 守谷市との協働事業

- ▶ 行政による給付型ではなく住民主体の事業
- ▶ 守谷市地域包括支援センターがみずき野地域包括ケアを後援するワンストップ窓口として個別の案件の解決を主導(公助と自助・互助・共助支援)
- ▶ 将来は市が福祉協力員に委嘱状交付(暫定措置として町内会長が交付)

◆ 仕組みを作り組織的に活動

- ▶ 継続性(個人に頼ると続かない)
- ▶ 見守りの質を向上し均質化する
- ▶ 対象者が安心して頼れるように見守り内容を"見える化"
- ➤ スピード感を持って具体的な日常活動にする
- ▶ 実行しながら改善し、発展する

みずき野で活動している福祉活動の見える化

■活動を3種に分類し、現状を評価■

福祉活動 現状の評価 3種類に分類 ◆防犯パトロール ◆継続して活動 など 対 象者 現状 ◆援けあう風土作り ◆強化・改善する活動 評価 ◆ボランティア支援・再編 ◆全体調整機能 ◆新しく立ち上げる活動 ◆幹になる活動グループ

みずき野 地域包括ケアの主な活動

少子高齢化対策活動

	見守り	ふれあい・交流	広報
子供	挨拶運動	夏休ラジオ体操 サンタさん ハロウィン 子供ヘルパー	↑ ↑ ↑
青年層	- 防犯パトロー - 防犯パトロー - 福祉協力員 - 福祉協力員	を	ホームページ町内会活動
子育て世代	保 保 推 推	動 (・	が、
リタイア世代		新 イ デ	配布 ———

注: 太字は3~4年前から始まったもの

子育て世代の転入促進

- ◆守谷に*転入世帯を増やす*のは守谷市の仕事
- ◆その転入世帯が*みずき野を選ぶ*のはみずき野の仕事

<u>守谷市に転入</u> (守谷市)

- ▶広報活動(住みよさ、都心への通勤圏)
- ▶雇用の創出(シリコンバレー、起業支援、税制)
- ▶Uターン・Iターン支援(税制、移転費用補助、)
- ▶子育て環境整備(教育、安全な街)
- ▶<u>住環境整備</u>(文化施設、スポーツ施設)
- ▶福祉施策の充実(子育て、弱者支援)

<u>みずき野に転入</u> (みずき野)

- ▶開放された街(転入しやすい街)
- ▶地域で子育て(核家族の支援、学校活動支援)
- ▶住環境整備(洗練された町並み)
- ▶ <u>居場所作り</u>(地域への融和促進プログラム)
- ▶羨望の加速(住みたい街イメージ、住んで実感)
- ▶ <u>妬みの解消</u>(地域への貢献、近隣地域との融和)
- ▶ <u>終の棲家</u>(「最期は自宅で!」が可能な援けあい・ 思いやりのある街)

青年層の定着と転入促進

みずき野で育った青年層が住み続ける 他所で育った青年層がみずき野に魅力を感じて住み始める

- ◆地域に青年層の居場所がない 活動の場が他所にある 友達が地元に居ない
- ◆みずき野に愛着を感じない 地域につながる楽しい思い出が少ない 地域に引き継ぎたい伝統・風習がない
- ◆「巣立つ子供を束縛しない」という親の思い 「近くに住んでくれれば、」と思ったときには他所での生活が始まっていた 束縛しない親子近住の考え方が無かった(以前は都心通勤の不便さがあった)
- ◆地域に青年層の居場所を作る 地域への貢献を実感できる青年層をターゲットにしたボランティア活動を創設
- ◆地域に愛着を感じる環境整備 「故郷創生」活動 娯楽の場・機会を作る
- ◆Uターン・Iターンの促進 転居支援 シェアハウスなど多彩な住み方を提案

地域活動拠点としての高機能複合施設開設

高齢者賃貸住宅 守谷市役所 介護施設 食堂・ケータリンク 児童館•塾 ゲストハウス 高機能 児童宿舎(共稼ぎ対策) 複合施設 医療施設 買い物支援(Net/通販など) 公民館機能 集会所機能

総合指揮 行政支援

▶ 雇用の創出

子育で・教育

▶ 福祉施策

不動産会社

施設オーナー 空家•賃貸業務

介護業者

事業社

施設機能の経営

施設の利用者 街づくり 住居の提供(売、貸) シェアハウス

みずき野町内会

今後の予定

-改善検討事項-

□見守り事業の強化

- ▶地域内に複合福祉施設の誘致を促進
- ▶地域による子育て支援プログラムの充実
- ▶自主防災と福祉協力員の協働作業具体化
- ▶生活支援プログラムの強化(よろずや事業と環境整備ボランティアの協働)
- ▶買い物難民の支援策検討(宅配、移動販売などの仕組みづくり)
- ▶交通弱者の支援策検討(福祉タクシーなどの事業化)

□組織の強化と運営体制の確立

- ▶女性の参画を促進(半数は女性)
- ▶広報活動の定着(手段、サイクル、など)
- ▶活動記録(活動内容の文書化と個人情報の保管は別の仕組みで考える)
- ▶ボランティアの募集を継続的に実施し、運営する仕組みづくり

□空家対策

- ▶行政・不動産業者と連携した子育て世代の呼込み
- ▶家屋の荒廃予防

□関連組織との連携強化

- ▶市役所、社会福祉協議会、民生委員、母子保健推進員、など
- ▶小学校、幼稚園、保育園、近隣地域、との連携

補足資料

地域家族とは

地域家族(岩見太市氏の著書「地域家族の時代」で紹介されています)

- ▶日本にも古き良き時代がありました
- ▶三世代同居で、お互いに見守り助け合いながら安心・安全な日常生活を送り、半数以上のお年寄りが自宅で家族にも守られながら人生を終えることができていました
- ▶しかし、核家族化が定着し、急速に高齢化が進んだために、状況が変わりました。子育 てに悩む親御さんが増え、終活がとても大きな社会問題になり、子供の健全な成育環境 も怪しくなっています
- ▶この変化に対応するためには、地域が<u>擬似家族化して、地域の住民同志がお互い見</u> <u>守り、助け合う</u>ことが必要ではないかという提言です
- ▶この成功例としては、2014年の白馬村で起きた地震対応です。夜間の地震発生にもかかわらず、地域が助け合い被害を最小限にとどめることができました。 地域での見守り、助け合いが日常生活の中に定着していたからこそ成し得た成果です
- ▶守谷でも古くから続いている地域ではその風土はできていると拝察しますが、仕組みとしてそれが定着していれば安心度が違うと考えます。(「何とかなるだろう」という少し不安の混じった状況ではなく、仕組みが機能していれば、「しっかり守られている!」という安心感が生まれます。安心・安全を実感できることは幸せです)

福祉協力員制度 と自主防災隊(次の4ページ参照)

- ▶みずき野で安心・安全に住み続けることができる街を実現するための**実行部隊の核** になるボランティア組織
- ▶3年前から活動を始め、試行錯誤を重ねながら定着しつつあります(現在、福祉協力員は約50名、自主防災隊隊員は約200名)
- ▶2015年自主防災隊のリーダーシップにより**住民主体の減災活動が浸透**してきた
 - * 全体としての活動(全住民対象の訓練、リーダー会議、など)⇒<u>28回</u>
 - * 8つの分隊ごとの活動(班単位、分隊単位の訓練など)⇒<u>52回</u>
- ▶災害発生時の被災者支援、弱者支援について自主防災隊と福祉協力員の協働活動の具体的な議論が始まっています
- ▶福祉協力員制度は3年間の活動を総括し、今後のあり方について毎月開催される リーダー会議で検討をしています

防犯パトロール

- ▶長い歴史のある防犯連絡協議会みずき野支部と町内会防犯部が<u>毎月4回</u>の町内パトロールを実施しています。パトロール参加者は町内会のベスト、又は、防犯連絡協議会のユニフォームを着用しパトロールしますが、散歩の時にもユニフォームを着用し防犯に貢献しています。現在のメンバーは合わせて100名を越えています。
- ▶小学生の登下校の安全を確保するため、**青色パトロール、朝の挨拶運動**、また、子 **供110番**にも多くにボランティアが参加しています。

高齢者に焦点を当てた見守りと生活支援

- ▶高齢者の生活支援として「**よろずや」事業**を限定的に始めています。対象を広げる ことを今後の課題としています
- ▶社協みずき野支部の活動として高齢者食事交流会を開催しています。回数を増やすこと、高齢者の調理参加などを検討しています

子育て支援として小学校、幼稚園・保育園活動のお手伝い

- ▶郷州小学校児童の登下校見守り、朝の挨拶運動、児童の学習支援など、郷州小学校主催の行事をお手伝いすることで学校と地域が連携した子育てを推進しています
- ▶同様の活動を近隣地域の幼稚園、保育園と推進しています
- ▶これらの活動により、夏祭りにはみずき野幼稚園、郷州小学校の施設をお借りできますし、児童・園児(近隣の幼稚園・保育園を含めて)も夏祭り行事に参加いただくなど、成果を挙げています
- ▶このような活動を通じ、子供達が安全に過ごせる街、親御さんが安心して子供達を 遊ばせられる街を実現し、みずき野に住む子供達が増えることを願っています

みずき野 福祉協力員制度

◆ 地域住民による地域住民(子供から高齢者まで)を見守る活動

- ▶ 多くの住民がそれぞれの立場で参加
- ▶ 互助、共助を中心に活動(公助、自助と分業)

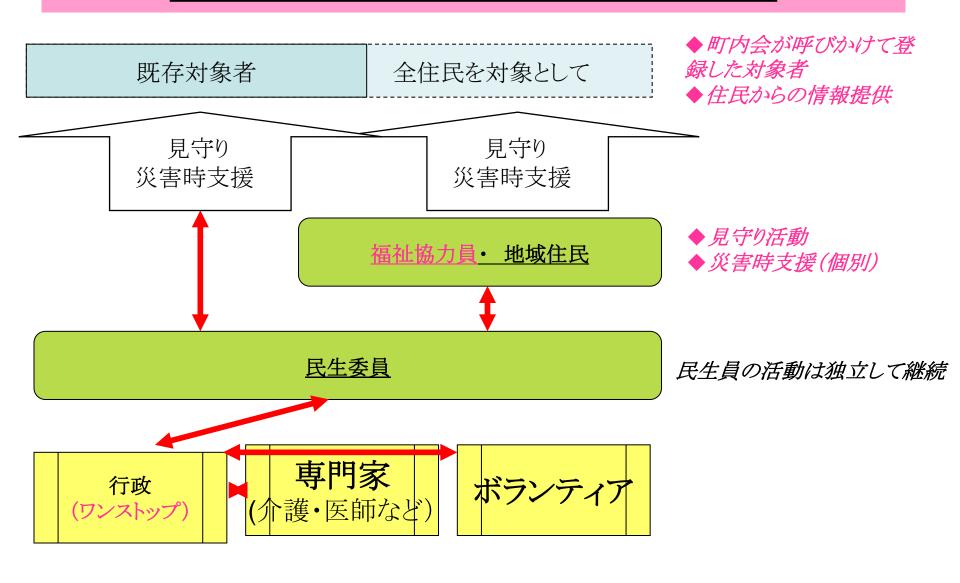
◆ 守谷市との協働事業

- ▶ 行政による給付型ではなく住民主体の事業
- ▶ 守谷市地域包括支援センターがみずき野地域包括ケアを後援するワンストップ窓口として個別の案件の解決を主導(公助と自助・互助・共助支援)
- ▶ 将来は市が福祉協力員に委嘱状交付(暫定措置として町内会長が交付)

◆ 仕組みを作り組織的に活動

- ▶ 継続性(個人に頼ると続かない)
- ▶ 見守りの質を向上し均質化する
- ▶ 対象者が安心して頼れるように見守り内容を"見える化"
- ➤ スピード感を持って具体的な日常活動にする
- ▶ 実行しながら改善し、発展する

福祉協力員制度による見守り活動



自主防災組織の役割

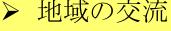
-平常時の減災活動と訓練が重要-

◆平常時

- > 地域内の安全点検
- ▶ 防災組織の普及・啓発
- > 防災訓練

◆災害時

- > 安全確認
- > 初期消火
- > 避難誘導
- > 救出·救助
- ▶ 情報の収集・伝達
- ▶ 避難所の管理・運営



- ▶ イベントに参加
- ▶ 防災訓練に参加
- > 広報活動
- > 資機材の整備点検
- ▶ 防災マニュアルの整備
- ▶ 防災カルテ・マップの作成

留意点

- > 安全確認(本人·家族)
- ▶ 状況把握(近隣·弱者)
- ▶ 情報収集·伝達(本部·近隣·弱者)
- > 安全な場所に誘導
- > 安心感を持たせる(落ち着かせる)
- > 可能な限り自宅避難
- ▶ 避難所運営マニュアルの整備

有事の自主防災隊活動(5本の柱)

一日目

二日目

三日目

本人・家族の安全確保

災

害

発

生

災害対策本部立

ち

げ

災害対応指揮

最速で到着した上位者が指揮し、上位者到着後指揮を委譲する

緊急対応 ⇒ 治安確保 ⇒ ⇒⇒⇒ 後始末

情報収集

町内被災情報

町内 ⇒ 外部

町内避難状況

収集 ⇒ 発信 ⇒ 交換

近隣被災状況

救助要請

各丁目分隊の活動状況を把握し支援体制を組む

各丁目・学校・幼稚園の災害対応支援

救護所の開設と運営

町内医療機関への支援お願い 取手医師会病院が緊急時対応医療機関

避難所の開設と運営

自宅避難者への支援体制を確保 避難所は郷州小学校学区の住民が対象

夏祭り

- ▶みずき野のふれあい・交流の柱として、「<u>ふるさと創生</u>」をテーマにして住民参加型 の手作り夏祭りをやっています
- ▶子供達、青年層、熟年世代、リタイア世代など世代を超えた方々が主催者(祭りを見に来るお客様ではなく)として参加しています
- ▶毎年多くのボランティアが工夫を凝らしながら、**住民皆が楽しめる夏祭り**を企画しています。毎年、新しい企画が生まれています
- ▶少子高齢化が進む中で、子供の参加は年々増えています
- ▶みずき野を巣立った子供達が、毎年、子供(住民の孫)をつれて夏祭りに帰ってくるようになりました

みずき野のサークル活動

- ▶みずき野在住者が中心になり、みずき野にある施設(集会所、公民館、小学校、野球場など)を利用して60以上のサークルが活動しています
- ▶子供から高齢者まで男女を問わず、様々なサークルがあります。(運動、芸術、趣味、娯楽など)
- ▶特に、みずき会(60歳以上が正会員)のサークルの躍進には目を見張るものがあります。(リタイア世代の居場所作りに貢献し、みずき会の会員も増えています)
- ▶現在、利用施設の稼働率は非常に高く、利用予約も悩みの種になっています。

大人同窓会

- ▶みずき野で育った子供達のとってみずき野は「ふるさと」です
- ▶日本の多くの田舎では、子供達には育った地元のお祭りが心に残って、「お祭りに はふるさとに帰りたい」という懐かしいものです
- ▶ 夏祭りをそんなイベント(懐かしく、帰郷したい)にするため、夏祭りに合わせて**育った子供達(20歳代から40歳過ぎまでの卒業年度をまたがった青年層)が参加できる同窓会**を企画しました。**同窓会の企画は参加者に任せて**います。(町内会は口を出さない)
- ▶夏祭りには帰郷して、爺婆、子供達、孫 の三世代が会える機会にしたいと願って います
- ▶同窓会のメンバーが核になってみずき野に青年団ができれば、みずき野に住む青年屋の居場所作りが進むと期待しています
- ▶この企画をきっかけにして、新しいカップルが生まれれば良いな!!と思っています

ふるさとみずき野朝市

- ▶毎月第一日曜日に守谷駅西口で開催される朝市のみずき野版です
- ▶毎月第三日曜日に開催します
- ▶検討している移動販売のテストケースと位置づけています
- ▶高齢者が出かけるきっかけになればと期待しています

オープンテラス

- ▶みずき野の真ん中に位置する集会所にテラスを設け、散歩の途中などのお休み処、 穏やかな日中のふれあいの場として整備しました
- ▶テラスの利用者を増やすため、テラスを使った様々なイベントを開催しています

県人会

- ▶出身県、その県に縁のある方、などが集まって県人会を組織し親睦を深めています
- ▶現在、47都道府県のうち、県人会の無い都県のほうが少ない状況です
- ▶最近の傾向として、四国会、九州会など地域連合を結成し、参加者を増やし、「人 の輪」を広げる企画も出てきました
- ▶みずき野在住者以外の参加も歓迎します

みずき会

- ▶会員数300人を超える老人会(加入者数は守谷市で最大)です。
- ▶リタイア世代の居場所つくりに貢献していますが、当初からの会員である後期高齢者 層との融和が課題になってきています
- ▶十数サークル(趣味、運動、文化、など)が活動しています。会員数が30人を超えるサークルもあり、活発に活動しています。このサークル活動が新規加入会員増加に貢献しています。

ホームページ

- ▶在住者にとどまらず、巣立った子供達、守谷に住むことを考えている皆様にみずき 野の現状・魅力をお伝えするためにHPを充実しています
- ▶こまめにイベントなどを更新しています。ほぼ毎週新しい記事が掲載されます。機会がありましたら覗いてみてください。
- <u>http://www.mizukino-chonaikai.org/</u>

町内会だより

- ▶住民にみずき野の今を理解していただき、**風土作りのための共通理解を深める**ために2013年から年4回発行しています
- ▶新年、4月の総会、夏祭りの報告、秋の催しメインテーマにしてスタートしましたが、 みずき野の四季・自然、直面する課題、など様々なニュースをとりあげています
- ▶HPにも掲載しています